

町は祭り



検査
校舎
下り

05

住職挨拶



検校庵 住職 鈴木 恵道

形は異なれども無事に御柱祭が執り行われたことに安堵しております。

コロナ禍による世界の混乱の収束を願いながら日々過ごして参りましたが、予想もしない出来事が次々と起こり不安な気持ちで過ごされている方も大勢いらっしゃるでしょう。

世界の混乱とは関係なく、今年もお盆を迎える時節となりました。ご先祖様と共に、平和な未来を願いながら掌を合わせましょう。心穏やかにお盆をお過ごしくださいませ。

大本山永平寺貫主南澤道人禅師様のお言葉をお伝えさせて頂きます。

『殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ』

御開山道元禅師様は、釈迦牟尼仏の御教えが実践される處に「永久の平和が実現する」とのご信念からこの道場を「永平寺」と命名されたと拝察しております。

釈迦牟尼仏が覚られた世界は、一切が和合調和を示しております。和合調和の世界を乱すのは、何時の世も人間の我愛・我癡・我見・我利・我欲です。

前の大戦以降、世界は調和と協調を理想に歩んできたはずです。しかし、ひとたび我利我欲に支配された指導者が現れると、忽ち連鎖し、遂には有無を言わせぬ暴力で一国を強引に我が物にせんとする、決して許されざる行為に及ぶ国さえ現れました。

大本山永平寺 貫首 南澤道人

お釈迦様の御教えは簡潔です。

すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。

己が身にひきくらべて、

殺してはならぬ。

殺さしめてはならぬ。

『真理の言葉』第十章暴力 中村元訳

冀わくは誰もが我が身に引き当て、辛く悲しい争いを起こしませんことを。

「向かい風上等！」

飯島 恵道

「信州は、昔からこんなに強い風が吹いたっけ？」と感じる日が増えたように思います。

皆さんはいかがでしょうか？この原稿を書いている間も、外はものすごく強い風が吹き荒れています。私はスクーターで月参りに回っておりませんが、あまりにも風が強くて横倒れになりそうになります。

強く吹き過ぎるととても怖い風ですが、実は多くの恩恵をもたらせてくれています。

まず、電気を作る原動力の一つでもあります。また、台風が多量の雨をもたらす水不足を解消してくれます。しかし、あまりにも多すぎると豪雨災害がおこり生活が脅かされるため、これは恩恵とは言えません。次に、強い風が吹くことが生態系の維持に繋がっているのだそうです。

強い風によって、海面付近の温かい水と、海深くの冷たい水がかき混ぜられて、結果的に海面付近の水温が下がります。「お風呂のお湯の上の方は暑いから、下の方のぬるいお湯とよくかき混ぜて入りなさいよ！」と、小さい頃親に言われたことを思い出します。

海の中で水温の影響を受けやすいのがサンゴ礁だそうです。水温が高すぎるとサンゴは死んでしまうそうです。水温が高いとサンゴ礁を棲み処にする生物が減り、その生物を食べる生物が減り、最終的には生態系のバランスが崩れてしまうということです。風による海水のかき混ぜ効果がこれを防ぐ働きをしているということです。風がこんなにも大きな役割を果たしていたことを知り、あらためて驚きました。

さて、風は色んなものを揺さぶります。私たちの心もよく揺さぶられ

ることがあります。

社会には、人の心を揺さぶる八つの風が吹くといわれています。

利(利益)、譽(名譽・ほまれ)、称(称讚をあびる)、楽(楽しみ)、衰(気力・体力などの衰え)、毀(不名誉、けなし)、譏(そしり、非難、中傷)、苦(くるしみ)の八つです。

「八風吹不動(八風吹けども動ぜず)」、この言葉をお聴きになった事がある方も多いかと思えます。心を揺さぶる八つの風が吹いても、吹き飛ばされることなく生きていきなさいという意味です。

ここで大切なのは「不動」の解釈です。「全く動かない」というのは、無理な話です。生きている限り、人間は動き続けますし揺れ続けます。それは誰でも同じです。揺さぶられたら元の位置に戻る、これが禅の「不動」です。坐禅をするときに、身体を左右に揺らして、徐々に揺れを小さくして真ん中あたりで止まる左右揺振ようしん、それと同じようなことだと思います。

オリンピックの種目に「スキージャンプ」がありますが、飛距離を伸ばすのは、追い風でしょうか？向かい風でしょうか？実は向かい風だそうです。向かい風だと浮力が増し、飛距離が延びるそうです。

これを知って、私はとても元気が出ました。「たとえ嫌なことがあっても、それは人生のジャンプのチャンスなんだ！頑張れ！」と自分を応援することができるようになりました。

『八風、向かい風、そしてコロナの風…』

どんな風が吹こうとも、「向かい風上等！」帰るべき元の位置、元の場所を忘れなければ、その風を使って大きくジャンプすればよし！そんな風に生きていきたいと考えております。

大麦小麦二升五合

藤田清隆

【二斗二升五合】といえは、

一斗は五升の倍だから、「ごしょうばい」ご商売」。二升は升がふたつなので「ますます」益々」。五合は一升の半分なので「はんじょう」繁盛」。すなわち「ご商売益々繁盛」という語呂合わせであることが有名です。

【大麦小麦二升五合】次のような逸話が残されており。

昔あるお婆さんが、お坊さんからその一文を聞いただけで悟りを開かれた方がいるほどの尊い経文の一節があると教えて頂き唱えてみたところ、病を患った方の状態が改善されたのです。

その後、大勢の方の病気を治し続けていたのですが、噂を聞きつけたお坊さんが様子をうかがいに来たところ、お婆さんは「大麦小麦」…と唱えていた訳です。驚いたお坊さんから「正しくは

応無所住而生其心ですよ」と訂正

されたお婆さんは、その後「応無」…と唱えるようになりましたが、治療しても効果が出なくなっていました…。というのが、「大麦小麦二升五合」という話です。

この逸話こそ「応無所住而生其心」の本質を表す話となります。

お婆さんは間違えて覚えてしまいました。正しくは

【応無所住 而生其心】(応に住する所無くして其の心を生ず)という金剛経の一節です。

語意は、「とらわれない心」と言い換えることができます。

この言葉は、禅の境涯を表現したところでもあります。身近なところでは自動車の運転に例えることが出来ます。

免許を取得するために教習所に通ったばかりの頃を思い出してみていただきたいと思います。

右手でハンドル、左手でギア、

右足でブレーキとアクセルを操り、鉄の塊を目的の場所に移動するため、教官に怒られながら必死で操縦していませんでしたか？

緊張しながらぎこちない操作を繰り返し何とか免許取得してから早何十年…。

今ではまるで身体の一部でもあるかのように、無意識に自分の手足が動いて、左右に移動したり、加速減速を繰り返すことが出来るようになっていくかと思えます。

ところがどうでしょう。沿道に新規オープン看板を見つけたとたんに「いつオープンするのか？」など「どのようなお店なのか？」などと心奪われて前の車に衝突しそうになってしまふのです。

その瞬間に心がとらわれてしまい、無意識で出来ていたことが出来なくなる。つまり、自由自在で無くなってしまうのです。

目的地にむかって安全運転をす

るといふ本分を忘れることなく徹底する。これが難しいところ。です。

今回の飯島恵道師のコラムに出てきた「八風吹けども動ぜず」に照らし合わせてみるところの「不動」は、「とらわれない心」と言い換えることが出来るでしょう。

私達人間よりも、山川草木や動物の方が本分(元の場所)を忘れることなく素直で自由自在に生きていると感じます。

雨に打たれれば垂れ、日が差せば向かう。私共も本分に沿ってとらわれることなく生き抜く姿勢を忘れてはなりません。

お婆さんは病を少しでも和らげてあげたいという想いよりも、正しく唱えようという思いにとらわれてしまったのですね。

